

2005 年度升本美苗基金 助成金事業報告  
特定非営利活動法人アジアボランティアセンター(AVC)  
「差別と闘い、共に生きる」

2006 年 2 月 11 日 報告:山本愛(AVC)

助成事業名: 「ネパールのダリット女性活動家育成にむけて ― 日本における被差別部落の解放運動、女性運動の取り組みに学ぶ国内視察研修」

期間: 2005 年 11 月 17 日～30 日

場所: 福岡、大阪、兵庫、奈良、神奈川、東京

協力: 反差別国際運動日本委員会(IMADR-JC)

## <助成事業の背景>

---

### 1. ネパールのカースト制度とダリット (ダリット Dalit=「抑圧された者」の意、被差別カースト)

ヒンドゥー教的規範とカースト制度はインドから侵入したヒンドゥー教徒が持ち込んだものであり、彼らが政治的支配者となることによって広がった。ヒンドゥー教徒の勢力拡大に伴って、カースト制度が社会全体に深く根づいてきた。そこには元来カーストをもたない民族もヒンドゥー規範に基づく法によって、カースト制度の中に取り込まれてきた歴史がある。現憲法では法の下での平等が保証されている。しかし「浄・不浄」の観念や身分階層の意識が未だに多くの人々を捉えており、カーストに基づく差別や一部の人々を「不可触」とみなす習慣が残っている(現在のヒンドゥー教人口は約 8 割)。

ダリットはかつて「不可触民」と呼ばれカースト制度の最底辺に位置づけられた人々である。「不浄」とされているがゆえにヒンドゥー寺院や飲食店などへの入場を拒否されるなど、日常生活での差別をうけてきた。土地無し農民が多いため経済的に搾取され、社会的地位も低いがゆえに政治参加の機会が奪われ、貧困かつ無権利の状態にとどめられている。しかしながらダリットは別名「職業カースト」と呼ばれるように、その多くは日常生活に欠かせない様々な物やサービス(鍛冶、皮革加工、清掃、縫製など)を提供し、社会の底辺の労働を担ってきた職人集団である。

### 2. ダリット女性の現状と課題

現憲法では「何人も性別によるいかなる差別も行ってはならない(第 3 条 11)」と性による平等を保障している。またカーストによる差別も禁止している(11 条)。しかし一方ネパールを「ヒンドゥー教立憲君主制国家」と定めており、ヒンドゥー教徒は人口の約 80.6%を占めている。実質上のヒンドゥー国家である。教えは単なる宗教というより、生活の規範を示す社会制度として人々の生活を支配しているため女性やダリットの従属的状況、差別的状況は根強いものがある。ヒンドゥー教の影響を強く受けた封建的父権社会で、女性とダリットに差別的かつ不利な社会が形成されている。

## 教育

女性の識字率も徐々に上がってきているものの、娘はいずれ他家に嫁ぐものとみなされ学校教育は必要無い、という考えも未だ根強い。

地理的に分断された国土の統一を目指した 1960 年代に、国家政策としてはじめて、女性の教育への平等なアクセスが採用された。しかしながら、非識字層に占める女性の割合は 62.5%と依然として高い。また、大学進学条件となる高校卒業有資格者数に占める女性の割合も 31.12%と低いのが現状である。ダリットについていえば、ダリットの女性の非識字率は 88%と高い。また、農村を中心にダリット学生に対する差別も継続している。例えば、高位カーストと同じ席に座らせてもらえず教室の一番後ろに座らされる、同じ水のみ場を使わせてもらえない、サラスワティという学問の神様を祀る行事には参加させてもらえない、等である。

民族・カースト別識字率(%, 1996 年)

出典: NESAC

民族・カースト	識字率 (%)
バフン	58.0
チェトリ	42.0
ネワール	54.8
グルン、マガール、ライ シェルパ、リンブー	35.2
ムスリム	22.1
ラージバンシ、ヤダブ タルー、アヒール(タライの 諸カースト・民族)	27.5
<b>ダリット</b>	<b>23.8</b>
その他	27.6

## 経済・労働

ネパールの主要産業は農業であり、労働人口の 83%(1997 年)が農業に従事している。そのほとんどが自給自足のためである。また女性の代表的な経済活動は自給自足のための農業である。女性の労働人口のうち 93%は農業セクターで働いているといわれている。これは、女性が農業を中心とする生産労働に加えて、家事・育児などの再生産労働の大部分を担っているために生じている。

特にネパールのように自給自足的・生活維持的な経済のもとでは、農作業は多種多様かつ膨大な量に及び、家事労働も水汲みや薪の採集・運搬をはじめとして、労力や手間のかかる労働集約的な作業なかりである。しかもこの仕事は世帯内でも社会的にも経済的貢献として正當に評価されていない。

またネパールでは世帯収入の分配は世帯主である男性が取り仕切るのが慣習となっている。女性は家事に加えて農業又は賃金労働にも従事しているにも関わらず、家庭においても意思決定権がない場合も多い。

女性は再生産活動の担い手であると同時に生産活動の担い手でもあるにもかかわらず、男性に依存・従属せざるを得ない場合が多い。

農村では、家計が苦しければ口減らしのために娘を売ることが行われている。極西部バイタディ郡には、貧困家庭の未婚の娘が神への捧げもの(デウキ"Deuki")として寺院に捧げられる習慣があり、ダリットの少女たちが犠牲になっているという。また西ネパールには、女性は売春を生業としていたダリットのカースト「バディ」が存在している。このような女性の人権を無視した伝統的習慣も一部でこのこっている。また、ネパールからインドおよび近隣諸国へ売られる女性も多い。ある調査によると、人身売買の犠牲者のうちダリット女性の占める割合は約 60%という。

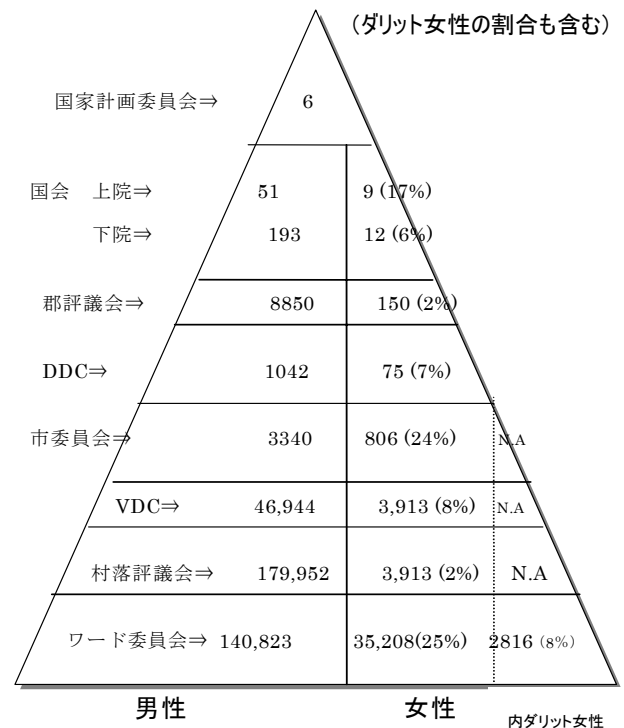
## 政治参加

家庭内と同様に、村レベル・国レベルの政策決定においての意思決定権も女性は殆どもっていない。

現在、地方自治に参加している女性は約 5 万人と増えてきているとはいえ、その多くが読み書きすらできない。会議に出席しても積極的に発言をする女性は極少数である。現行の施策では、女性の置かれている現状や課題が認識され、彼女たちの声が政策に反映されないことは明らかである。ジェンダーに加え、カーストも政治進出の阻害要因となっている。政治進出できるカーストは限られており、高位カーストが中心である。国会議員もダリットの女性は皆無である。昨今女性運動も活発になってはいるが、教育をうけた高位カースト女性が主導であり、そこにダリット女性の参加はなかなか見られない。

このようにダリットは差別的な慣習や法のもと、長年にわたって社会・経済・政治において周縁におかれ、学校への就学率も低く、中退率も高い。そのために社会進出が遅れ、貧困の悪循環に陥っている。ダリットの中でも特に女性は家父長制の中で抑圧され続け、基本的権利を奪われている。

政府・行政機関への男女別の参画



資料 FWLD(2000),S2(1998)を元に AVC 山本作成

### 3. 立ち上がるダリット女性たち、FEDO の活動

#### FEDO 設立の経緯と現在の活動について

ダリット解放運動は男性が主流であり、女性運動は高位カーストの女性が中心である中、ダリット女性の声が運動や政策に反映されることは殆どなかった。

そのような状況の中でフェミニスト・ダリット協会 (FEDO) は「ジェンダーとカーストに基づく差別と闘い、公正かつ平等な社会を築く」ことを掲げ、1994 年にダリット女性自身によって設立された。現在ネパールではダリット女性のための唯一の全国的組織として活動を展開している。識字教室を導入として、内面化した被差別の状況に気づかせるための意識化、組織化を通じて広く啓発活動をおこない、女性のエンパワメントと権利の回復をめざしている。その活動分野は健康、教育、収入向上、啓発・政策提言、組織強化など多岐に渡る。特に運動を担う女性を育成するための教育と、高位カースト・ダリット両方への啓発、世界の被差別者との連帯に積極的にとりこんでいる。



旗を掲げてデモ行進中の支部メンバー(ラリトブル郡)

## 4. AVC と FEDO のパートナーシップ

AVC は 2001 年度よりネパール現地カウンターパート NGO として FEDO(フェミニスト・ダリット協会:Feminist Dalit Organization)と連携し、複合差別を受けるダリット女性たちの課題に共に取り組んでいる。

1. スタディツアー・体験学習の実施
2. 人材育成事業への協力
3. FEDO 奨学生基金への協力
4. 日本国内での啓発活動
5. 国内他団体(人権団体、労働組合)との協働事業

### <助成事業の概要>

---

#### 背景と目的:

FEDO は AVC の現地カウンターパート NGO として数年来の協力関係を築いてきた。これまでに、FEDO からは過去数名活動家が私たちの招へいによって来日し、またスタディツアーを通じて日本からは AVC の会員が FEDO を訪問するなど、互いの経験交流を継続してきた。経験の交流によって両国の運動の戦略や反省が共有され、また国境を越えて共感がうみだされることはダリット女性のエンパワーメントの推進、また今後のダリット女性解放運動推進にも意義があると考えている。

本企画は FEDO スタッフと被差別部落をはじめとする日本のマイノリティ女性運動が交流し、運動の戦略や経験を学ぶ研修の機会を創ることによって、連帯の絆を深め、国際的な視野をもつダリット女性活動家を育成することを目的としている。同時にネパールと日本のマイノリティ女性が連帯し、差別の撤廃にむけた運動を推進するネットワーク作りにつなげたいと考えている。

#### FEDO 来日メンバー:

##### 1. レヌ・シジャパティさん(Ms. Renu Sijapati)

学生時代から FEDO の理事として活動。理事として FEDO の活動方針の策定に関する他、啓発研修の企画、地方で実施されている事業のモニタリング・評価や省庁との協議等に関っている。現在はダリット解放運動を行なう NGO のネットワーク団体である「ダリット NGO 連合」に勤務している。FEDO や NGO 連合の活動の中で遠隔地へも頻りに足を運び、実態調査等を行なう中で、ダリットが抱えている様々な地域の、様々な問題にふれる。ネパール全国でおこる差別事件の調査・取材を実施して雑誌や機関紙に情報提供するなど、精力的にダリットの現状をネパール社会に広く伝える活動に取り組んでいる。自らも鍛冶師カースト(ダリット)出身である。

##### 2. アニタ・シュレスタさん(Ms. Anita Shrestha)

先住民族ネワール出身。大学卒業後に FEDO 代表のドゥルガ・ソブと出会ってからダリットのおかれている現状や差別問題に関心を深め、99 年より FEDO 職員として関る。主に財務・総務業務を含む組織マネジメントおよびプログラムオフィサーとして数多くの啓発活動・生活向上事業の企画・実施・評価、政府へのロビー活動などを担当。スタディツアーの受入をはじめ、日本との窓口を務めており、部落問題にも大きな関心を寄せている。2002 年に部落解放人権研究所の招へいで一度来日している。

## 実施内容および関係者のフィードバック:

### ● 被差別部落の女性・青年、および在日コリアン・アイヌ女性との交流・意見交換

(受入協力)

福岡県連合会筑紫地区協議会女性部(約 20 名)

同、青年部(5 名)

奈良県連合会女性部(6 名)

兵庫県連合会伊丹支部青年会部、女性部(8 名)

「マイノリティ女性が抱える課題解決プログラム」(16 名)(部落、在日コリアン、アイヌ女性との課題共有)

「アプロ女性実態プロジェクト」(2 名)(在日コリアン女性の現状と、当事者による調査活動のヒアリング)

部落解放運動と部落女が担ってきた活動、また現在女性の抱えている課題について意見交換を実施。部落女性のみならず、在日コリアンやアイヌ女性の現状についても学ぶ。また、ネパールのダリット女性の現状に関して FEDO から情報提供を行なった。いずれも意見交換の時間は 2 時間～3 時間。

### (以下、アニタさん、レヌさんの感想)

- ・ 日本で私たちの運動にコミットメントを持っている部落女性、マイノリティ女性との出会いは、今後の私たちの活動に大きな励みを与えてくれました。今回の交流を通じて「私たちは孤独ではない、応援してくれている人がいるのだ」という思いがわきおこり、私たちに力を与えてくれました。
- ・ 国を越えて共通の問題を抱える日本の被差別部落女性たちとのネットワークを築き、被差別部落やダリットなど生まれに基づく差別を受けている女性による共同行動に向けた取り組みがはじまったことは、非常に実りあることです。
- ・ 解放運動を NGO ビジネスのように捉えているダリットもいるので、日本の非常にコミットメントの高い活動家と出会うことができ、スピリットの大切さを痛感しました。他の NGO と何らかわらないプロジェクト型の活動をしているダリット NGO も多く、そのことは真の解放運動とはいえません。日本の部落女性達と出会い、ネパールのダリット NGO の抱える問題点が明らかになってきたと思います。
- ・ また、部落解放同盟の「子ども会」「青年部」の取り組みに学ぶことは私たちにとって重要です。運動を担う次の世代を育成する場をつくることは重要ですが、ネパールのダリット運動には、そのような仕組みは現在ありません。先輩の作った運動を引き継ぎ、次に伝えるという感覚は運動の継続性においてとても大切で、その仕組みをつくる必要性を感じました。
- ・ 今回のように、外国の当事者団体との交流実績があると、義務履行者(ネパール政府)に対してプレッシャーを与える際に相手も我々を無視できなくなるために、大きな利点となるのではないかと思う。男性優位のダリット解放運動の中においても、今後私たちダリット女性の発言力が増すように思います。参加したダリット女性が、当事者のネットワークがあることの自信を背景によってエンパワーされることが、理由だと思います。

- ・ 部落解放同盟が全国組織であることが最も印象的でした。ネパールのダリット解放運動はカーストや地域によって活動がばらばらであることが現実です。ですので、団結力の重要性を学びました。しかし、部落解放同盟は男性中心の組織であるので、その中で女性達は活動の幅を制限されているようにも思えました。

また、部落女性の解放運動は男性中心の「部落解放同盟」の中に位置づけられた「女性部」という枠の中で行われていることを知り、ネパールでダリット女性が独立して団体を結成していることは「私たちの強みでもあることがわかった」とレヌさんは述べている。そして「開発型」のダリット NGO の問題点についても認識することができたと述べている。

レヌさんが所属するダリット NGO 連合も男性中心の組織であるため、今回の経験交流で学んだジェンダーの視点の重要性を積極的にネパールの運動にも訴えていかねばならないと意思表示している。

### 受入側(部落解放同盟福岡県連合会女性部、奈良県連合会女性部)のフィードバックより

ネパールのダリット女性との交流に参加した部落解放同盟女性部メンバーからは、次のような感想が寄せられていた。「先輩女性の歩んできた道と重なる」「他人事ではない」「今後も息長くつながって運動することが重要」「自分たち自身が海外に行ってダリット女性と交流することは容易ではありません。しかし、私たちはこうやって来てくださる方とのつながりを大切にして、地域でできることを続け、現地の女性たちとつながる支援活動を続けていきたいと思っています。でも、一度は現地を訪問してみたいなど思い始めています」。同じ差別をうけてきた当事者同士の連帯を強く求め、お互いの運動に活かしたいという熱意が感じられた。

#### ● 「人権のまちづくり」視察

(受入協力)

筑紫野市美咲地区(福岡県連合会筑紫地区協議会)

大阪市住吉区浅香地区(大阪府連合会浅香支部)

部落解放運動で取り組まれている、住民参加型のまちづくりについてフィールドワークを実施。特に、浅香支部では、被差別部落と一般地区の垣根を越えて、地域の課題を共に解決する取り組みがなされている。ネパールにおいて社会的包摂にも取り組む FEDO にとって、このまちづくりの経験は多くのヒントを得る機会となった。

#### (以下、レヌさん、アニタさん感想)

- ・ まちづくりの取り組みは、今回のプログラムの中でもっとも印象に残ったもののひとつである。美咲地区では、どのように住民を組織して(ワークショップなどを開催して)計画をたてていったか、具体的な過程を知ることが出来、有益であった。しかし、住環境は整備されても、美咲ではまだ差別が続いている実態を知り、差別撤廃の困難さを改めて感じた。
- ・ 浅香では、福祉施設が多く地区内に建てられており、周辺の住民が多く利用している。非ダリットと協働し、共に課題に取り組むことを考えている私たちにとって、示唆を与えてくれる取り組みであった。

## ●保育運動・識字運動に学ぶ(保育所、識字教室訪問、見学)

(受入協力)

太宰府市南保育所、筑紫野市京町保育所、宝塚市米谷保育所

福岡県連合会筑紫地区協議会 京町識字学級

部落女性が中心となって進めてきた代表的な活動例として、保育所運動、識字運動について学ぶ。また、保育士や子どもたち、教室の受講生とも交流を実施した。

(以下、レヌさん、アニタさんの感想)

- ・ 年齢を重ねても「学びたい」という意欲のある方々に会えて、「学び続けること」の大切さを知った。
- ・ 母親の生活に根ざしたニーズから起こった保育運動に感銘をうけた。また、子どもが小さいときから人権について学ぶ環境があることは素晴らしい。今後の FEDO の活動にも参考になると思われる。

## ● 女性団体訪問

(受入協力)

アジア女性資料センター

UNIFEM 日本国内委員会

横浜女性フォーラム

マイノリティ女性のみならず、日本における女性運動について学ぶ。また、FEDO はカトマンドゥに資料センターを建設予定のため、女性運動の拠点となる女性センター訪問は有益な情報を得ることにつながった。また、「憲法改正」の動き、女性運動のゆり戻しの問題をはじめとする日本の女性運動をとりまく社会、また戦時性暴力の問題など、レヌさん、アニタさんにとって初めて日本の女性運動の今日的課題について学ぶ機会となった。

(以下、レヌさん、アニタさんの感想)

- ・ 女性センターの施設を見学でき、その様々な機能に驚いた。カウンセリングルームや、作業場など、私たちが取り入れたいと思う活動がつまっていたのはよかった。
- ・ 時間が少なく意見交換が十分にできなかったのは残念である。日本の女性運動については、これからもっと知りたいと思っている。

他、「水平社博物館」(奈良県)や「女たちの戦争と平和記念資料館」(東京都)を訪問した。レヌさんとアニタさんは、ネパールにはない人権博物館を見学し、情報発信の媒体としての「博物館」に大きな関心を寄せておられた。

## ● 一般向け講演会

(東京)11月21日 19:00-21:00 会場:東京麻布台セミナーハウス 参加者:約20名

(大阪)11月23日 19:00-21:00 会場:クレオ大阪西 参加者:約32名

一般向けの講演会を2回実施。ネパールにおける差別とそれに対する挑戦をより深く理解することにとどまらず、参加者が自分たちの足元の問題を見つめ、自分たちの社会のありようを考えていくときのヒントにつなげてもらいたい、という目的で実施。

### (受講生の感想、ふりかえりシートから一部抜粋)

- ・ 部落差別と同じで、カースト制によるダリットへの差別を解消するには相当なエネルギーが必要だと感じた。だからこそ様々な団体や多くの人と手をつなぎ、連帯して一日も早く差別の解消につなげたい。
- ・ こういう(ダリット女性の現状を知る)機会を積み重ねて、複雑なネパールの状況・問題を理解し、日本ですべきことを知っていきたいと思う。
- ・ 今回の講演会でダリットの存在を初めて知った。日本にも部落差別というものが存在し、二つの問題とも根の深いものだと改めて思った。周りにいる人も活動するにあたって大切であるという話が印象的だった。

一般講演会以外に、大学での講義を2回実施した。その中でも、アニタさんは非ダリットがダリットの問題を真摯に考え、カースト差別を社会全体の問題として取り組むことの重要性を繰り返し述べていた。日本とネパールの女性及びマイノリティの人権確立に向けた連帯の意識が、今回のダリット女性との出会いによって、多くの人々の中で醸成されることを願っている。

### <まとめ>

ジェンダーの視点をダリット解放運動において議題化することと、ダリット女性と同じく複合差別をうける日本の女性たちとのネットワーク構築を FEDO はめざしている。その中で、部落女性はじめ日本のマイノリティ女性運動から具体的な運動の戦略のヒントを得ようという期待を、ダリット女性たちは抱いている。

また、ダリット女性は運動を支える精神的な支援やつながり、連帯を日本のマイノリティ女性に求めている。「お金だけではなく、継続した連帯の意識と、経験の分かち合いを日本の女性に求めている」と過去に何名もの FEDO の活動家が述べているように、外部との「連帯の意識」をよりどころにして女性差別とカースト差別の交差性を取り上げる彼女達にとって、今回のような交流は大きな支えとなるのではないだろうか。

今回の交流の限界として、交流時間の短さが挙げられる。マイノリティ女性との意見交換の中では、カースト制度や部落差別、武力紛争、各々の社会でうける女性差別については個別に訴えられたものの、その差別の根源にある家父長制や差別的な慣習についての分析、またその差別の撤廃にむけた運動的・理論的提起と具体的な協働のあり方にまでには至ることができなかった。交流の方法論については、今後も検討し、改善していく必要性を感じている。

しかしながら、今回の経験交流の試みはダリット女性活動家をエンパワーし、ネパール社会で「見えない存在」であったダリット女性達の姿を「見える存在」に変えていくことに貢献すると期待している。



## 実施スケジュール

2005年11月17日～12月1日

	日	曜日	時間	内容
1	11月17日	木	8:00 15:30-16:15 18:00-21:00	福岡空港到着(タイ航空) 大宰府市南保育所訪問 京町識字学級訪問
2	11月18日	金	9:30-10:15 10:35-13:00 18:30-21:00	筑紫野市京町保育所訪問 筑紫野市二日市北小学校訪問、人権学習のクラス見学 部落解放同盟筑紫地区協議会女性部と夕食交流会
3	11月19日	土	12:00-14:00	美咲地区まちづくり視察 筑紫地協青年部、女性部と昼食交流会 福岡空港から大阪へ移動
4	11月20日	日	12:00-14:30	ブロック解放祭参加(奈良県御所市) 文化交流会参加 水平社博物館、見学 奈良県連女性部との夕食交流会
5	11月21日	月	14:00 18:30-20:30	UNIFEM日本国内委員会訪問、横浜女性フォーラム見学 講演会(AVC・反差別国際運動主催 会場:東京麻布台セミナーハウス)
6	11月22日	火	16:00	アジア女性資料センター訪問・意見交換 反差別国際運動(IMADR)からのインタビュー
7	11月23日	水・祝	10:00 18:00-20:00	女たちの戦争と平和資料館(Women's Active Museum on war and Peace-WAM)訪問 東京から大阪へ移動 講演会(AVC主催 会場:クレオ大阪西)
8	11月24日	木	10:00-11:30 19:00-21:00	兵庫県宝塚市 米谷保育所訪問・交流 伊丹支部訪問、教育対策と青年部の取り組みについてヒアリング
9	11月25日	金	17:00	アプロ女性実態調査プロジェクトメンバーと交流
10	11月26日	土	11/26-27 11:00-12:00 12:00-13:00 13:00-15:00 15:00-17:00 17:15	<b>「マイノリティ女性が抱える問題解決プログラム」「アイヌ女の会」メンバーと交流会</b> 自己紹介 昼食 韓国・アイヌ・ネパールの歌・踊りの体験交流 アイヌ刺しゅうのワークショップ 韓国・アイヌ料理調理、夕食
11	11月27日	日	10:00-13:00 13:00	「マイノリティに対する差別」「ジェンダー」に関する意見交換会 意見交換会 大阪市住吉区浅香地区見学 ネパール料理、昼食会
12	11月28日	月	10:45-14:30 16:00 18:30-20:30	アジアボランティアセンター(AVC)事務所訪問 NTT労働組合西日本本社総支部訪問、会議 解放新聞社からのインタビュー 部落解放人権研究所 国際人権部会/女性部会 講演会
13	11月29日	火	10:40-12:10	近畿大学講義
14	11月30日	水	10:55-12:25 18:30-20:30 23:30	神戸女学院大学講義 AVCお別れ会・交流会(@AVC) 関西国際空港チェックイン
15	12月1日	木	1:25	関西国際空港発(タイ航空) バンコク経由、ネパールへ帰国